

COP27 に関する国際酪農連盟(IDF)の取り組み

IDF ブログ・インタビューと IDF・GDP(グローバル・デーリー・プラットフォーム) 共同声明

国際酪農連盟(IDF)は、国連気候変動枠組条約第 27 回締約国会議(COP27)を前に、事務総長キャロライン・エモンド氏のインタビューを公式ホームページのブログに 11 月 4 日に掲載した(*1)。エモンド氏は、インタビューの中で、これまで IDF が GDP などとも連携して取り組んできた世界の酪農乳業の環境対策に関する活動への積極的な参画を IDF 加盟各国に求めた。また、同日、COP27 に向けた IDF と GDP による共同声明が、IDF 公式ホームページに掲載された(*2)。その IDF・GDP 共同声明には、「デーリー・サステナビリティ・フレームワーク(DSF)」「デーリー・ロッテルダム宣言」「酪農乳業ネットゼロへの道筋」「酪農乳業セクターのための IDF カーボンフットプリント世界標準」など、世界の酪農乳業の気候変動対策への取り組みの経緯、相互関連性、ならびに進捗状況が詳しく説明されている。本稿では、このブログと共同声明の内容を紹介する。

IDF 事務総長キャロライン・エモンド氏の COP27 に関するブログインタビュー(*1)

1. COP27 との関係は何ですか？

私たちにとって COP27 の場合は、国連「持続可能な開発目標」(以下、「SDGs」)の中の特に気候変動対策に対する世界の酪農乳業セクターのコミットメントと、2016 年の「[デーリー・ロッテルダム宣言](#)」の署名や 2021 年の「[酪農乳業ネットゼロへの道筋](#)」イニシアチブの開始以降の対策の進捗状況を紹介する機会です。

また、カーボンフットプリント、温室効果ガス(GHG)とメタンの排出量、土壌、水、大気への環境面の影響を評価・削減し省エネの実践に取り組むために IDF が開発した国際的な標準やガイドラインを紹介する機会にもなっています。これらのツールは IDF のブリテンで発表されています。最新のものは、「[酪農乳業セクターのための IDF カーボンフットプリント世界標準](#)」の改訂版と「[C-Sequ 畜牛生産システムにおける炭素隔離計算のためのライフサイクルアセスメントガイドライン](#)」の 2 つです。

さらに、COP27 は、酪農乳業が世界各地で

SDGs に対応した持続可能な取り組みや気候変動対策を実践していることを、世界中に伝える機会にもなっています。これらの興味深い事例の多くは、IDF 公式ウェブサイト(www.fil-idf.org)で閲覧できる IDF 報告書「[酪農乳業の持続可能性見通し](#)」第 6 号の中に収載されています。

2. COP27 での IDF の役割は何ですか？

正確には、COP27 における IDF の役割は、この締約国会議において、世界の酪農乳業セクターを代表して各国政府や政府間組織(IGO)の前に立つことです。私たちは、前述したコミットメントと活動を伝えますし、酪農乳業が気候変動対策の解決策の一部であることと、それゆえに、酪農乳業セクターを適正な政策を通して支援することの必要性を各国政府や IGO に気づかせることにもなります。そのため、11 月 11 日 11:30~13:00(現地時間)に、世界の酪農乳業セクターの気候変動への意欲と「パリ協定」の達成に向けた進捗状況に関するサイドイベントを開催します。また、私は同日 16:30~17:30 に FAO パビリオンで「酪農乳業

ネットゼロへの道筋に向けた進捗状況」について講演を行う予定です。さらに、IDF の専門家は他のイベントにも参加する予定です。すべてのサイドイベントは、[YouTube の UNFCCC 公式チャンネル](#)でご覧いただけます。

また、COP27 における IDF の役割は、地域の酪農乳業セクターや組織がこの会議への関心や各国政府との対話を強化し、解決策の一端を担うためにどのような関与やサポートが必要かを IDF 会員に手引きし、ツールを提供することです。この目的のために、IDF では酪農乳業セクターの主張をわかりやすく伝えるためのキットを作成し、IDF のイントラネットで全会員に提供しています。そこには、なぜ酪農乳業が脅威ではなくて気候変動に対する解決策の一部であるのかを説明している地元政府に宛てた手紙のサンプル、世界の酪農乳業セクターが気候変動対策を生み出すために行っている活動を紹介する重要メッセージ、気候変動対策と世界の持続可能な実践に関するブログと出版物などが掲載されています。

3. 世界の酪農乳業セクターが気候変動対策を加速させるために行っている主な活動は何ですか？

世界の酪農乳業セクターが気候変動対策を促進するために行っている活動の多くは、カーボンフットプリント評価のための LCA 世界標準、畜産のための炭素隔離ガイドライン、水・土壌・土地利用における環境へのマイナス影響を減らし同時に生態系サービスなどのプラス影響を最大化するためのガイドラインなどの IDF が推進するベストプラクティスを活用することです。良いニュースは、これらのベストプラクティスやツールがすべて実践され、生態系サービスが考慮された時、酪農乳業は気候

変動に対する解決策の一部になるということです。

4. デーリー・ロッテルダム宣言の署名から 6 年が経ちましたが、その状況はどうですか？

多くの国がこの宣言に署名し、2030 年に向けた SDGs を追求することをコミットしたため、状況は良好です。デーリー・ロッテルダム宣言の目標には、気候変動対策や環境への影響はもちろんですが、それ以上に、世界レベルでの飢餓対策やジェンダー平等の改善など、グローバルセクターが誇りを持てる目標も含まれているからです。牛乳乳製品は動物性タンパク質、ビタミン、あらゆる年齢層での基本的な栄養、特に多くの開発途上地域で幼少期における主要な栄養源であり、世界中で 60 億人以上の人々に栄養を与えています。また、10 億人以上の人々に生計を提供しています。世界中の酪農場の多くは女性によって運営されています。そこで私たちは、世界の酪農における女性の役割を分析し、促進するために、「酪農における女性に関する特別作業部会」を新たに設置しました。また、科学的活動、特に酪農科学に関連した活動として、女性や少女の役割を奨励するために、「科学における女性」にも積極的に取り組んでいます。この点で、最近創設された IDF「[パベル・イエレン教授若手研究者賞](#)」の第 1 位と第 2 位の受賞者が女性であったことを、私たちは誇りに思っています。

5. 「酪農乳業ネットゼロへの道筋」イニシアチブとの関連は何でしょうか？

昨年、国連食料システムサミットで立ち上げた「酪農乳業ネットゼロへの道筋」の重要性は、ベストプラクティスに取り組むことで、GHG 排

出量と吸収量のバランスのネットゼロを達成するという目標を推進することです。これは、ご説明していますように、主に IDF が開発し世界の酪農乳業セクターに提供している標準、ツール、ガイドラインに基づいています。これは、酪農乳業が気候変動に対する解決策の一部であることを保証する一つの方法です。また、特に新興国と先進国の間で、世界中で知識やイノベーションを共有するためのプラットフォームでもあります。さらに、多くの開発途上地域では、持続可能で気候変動に対処するための実践がすでに行われており、酪農による放牧活動や炭素隔離を生み出す牧草地の育成が生態系サービス(自然生態系の公益的機能)の向上に大きく寄与することを示すためのものでもあります。

6. 気候変動対策を加速させるために、酪農乳業のグローバルセクターは他にどのような行動やコミットメントが可能でしょうか？

COP27 や昨年の食料システムサミット、そして私たち自らの IDF ワールドデーリーサミットのようなグローバルな会議は、知識とイノベーションの共有を通じて気候変動対策を加速させる方法です。世界の酪農乳業セクターは、これらのサミットに積極的に参加し、成功事例を持ち寄り発表し、各国政府を巻き込んでアドボカシー(主張活動)を行い、正しい政策の支援と実施を求めることによって、気候変動対策を加速させることができます。

IDF としては、COP27 やその他の国連や国際的なフォーラムに積極的に参加するだけでなく、IDF ワールドデーリーサミットにおいて持続可能性と気候変動対策のパネル討論を開催します。また、科学的研究による持続可能性と気候変動対策に関する標準、ガイドライン、

ベストプラクティスの開発・出版、「酪農乳業の持続可能性見通し」でのインパクトのある事例の紹介、「デーリー・ロッテルダム宣言」や「酪農乳業ネットゼロへの道筋」などのグローバルコミットメントやイニシアチブの促進、グローバルコミュニケーションキャンペーンや国連の国際デーの推進などにより、我々の役割を果たします。そのため、世界の酪農乳業セクターで持続可能性と気候変動対策を推進する一つの良い方法は、IDF の一員として、その複数の活動グループに参加し、その活動やキャンペーンを支援し、関与することなのです。

世界の酪農乳業コミュニティの皆様には、今後も私たちと共に活動し、関与して下さるようお願いいたします。

IDF・GDP 共同声明-国連 COP27(*2)

2022年11月7日から18日までエジプトで開催される国連気候変動会議(COP27)は、農業と酪農乳業がいかに解決策の一端を担えるかを議論する機会となることでしょう。IDF と GDP は、ウルグアイ共和国とともに、世界の酪農乳業セクターによる「酪農乳業ネットゼロへの道筋(Pathways to Dairy Net Zero)」の取り組みの進捗について11月11日にサイドイベントを開催する予定です。

酪農乳業は、GHG 排出量、水、土地利用への影響を低減し、土壌と生態系サービスに対する積極的な貢献を最適化することに取り組んでいます。このコミットメントは、2013年の「[デーリー・サステナビリティ・フレームワーク\(DSF\)](#)」の創設、2016年にIDFとFAOの間で署名された「[デーリー・ロッテルダム宣言](#)」、そして2021年の「[酪農乳業ネットゼロへの道筋](#)」の気候イニシアチブの立ち上げに表れています。COP27 は、酪農乳業セクターが環境への影響を緩和し、気候変動対策を強化するため

にすでに参画している多くの活動を伝えるまたとない機会となっています。

酪農乳業セクターは、持続可能な方法で生産された安全で栄養価の高い食品で世界の人々を養うために日々活動しています。世界中で 60 億人を超える人々が毎日、栄養を乳製品に頼っています。乳製品は栄養素を多く含む食品であり、大量のエネルギー、高品質のタンパク質、カルシウム、マグネシウム、セレン、リボフラビン、ビタミン B5 と B12 などの微量栄養素を供給しています。

また酪農業は 10 億人の人々の生計と、さらに多くの人々への食料供給のために不可欠であり、その中には慢性的な貧困、飢餓、栄養不足の状態で生活している人々もいます。牛乳乳製品の生産、取引、消費は、世界中で強いコミュニティを築くために不可欠なのです。酪農乳業セクターは、すべての人が健康で生産的な生活を送るために十分な良質の食料を与えられ、同時に将来の世代のために繁栄する地球を守る、強靱な食料システムの構築に貢献します。

酪農業は、先進的な考え方、イノベーション、技術を受け入れており、その活動的な性質から、環境への影響を低減するための新しい技術を継続的に取り入れています。国連食糧農業機関(FAO)が 2005 年、2010 年、2015 年のデータを比較して行った分析では、その 10 年間でこの部門の GHG 排出原単位(単位あたりの排出量)が 11%減少していることがわかりました。

この観点から、IDF は世界の酪農乳業セクターがカーボンフットプリントを算定するための強固なベンチマークを発展させ、バリューチェーン全体における同セクターの GHG 排出量削減の進歩を続けられるよう、「[酪農乳業セクターのためのカーボンフットプリント世界標準](#)」

を開発しました。この IDF カーボンフットプリント世界標準は、世界の酪農地域全体の GHG 排出源とその特性を理解し、酪農乳業セクターがネットゼロに向けた歩みを進める中で GHG による影響を緩和するための的を絞った行動を実行するために非常に重要な文書なのです。

また IDF は、畜牛生産システムにおける炭素隔離量を計算するための「[炭素隔離計算に関する LCA ガイドライン](#)」を発表しました。このガイドラインは、GHG のフットプリント計算の一部として、畜牛セクターにおける炭素隔離量を定量化するための適切な科学的根拠に基づく手法を提供します。この新しい方法論は、酪農部門と肉牛部門による 4 年間におよぶ共同作業の成果となっています。このプロジェクトの目的は、炭素隔離を推進し、それによって気候変動を緩和するような実践を酪農家が行うことを支援・奨励する方法を定量化を通じて開発することでした。

酪農乳業セクターは、メタンの温暖化等価排出量を測定する比較的新しい指標である [GWP*](#)(GWP スター)に関するエビデンスも構築してきました。包括的な文献調査とモデル化研究により、GWP*が GWP100 よりもメタンの地球温暖化への影響をより正確に評価することを示しました。GWP*は優れた計画・予測ツールであることが証明されましたが、[その適用には限界がある](#)こともわかりました。

さらに FAO、GDP、農業温室効果ガスに関するグローバル・リサーチ・アライアンス(GRA)の新しい報告書により、家畜の寿命や生産性に影響を与えるような疾病はすべて GHG 排出に大きく影響するため、家畜の健康を改善することが GHG 排出量削減の役に立つことができることを明らかにしました。

このような理由から、世界の酪農乳業セクタ

ーは COP27 を含めた気候変動に関する議論の場に積極的に参加しています。IDF、GDPとその加盟団体は、上に述べたようなゲーム・チェンジング・ソリューション(状況を変える解決策)によって、COP27 に寄与しています。私たちは今後も全世界、各地域、各国内での意見交換の機会に参加し、地球にとって重要なこの課題の解決に向け、酪農乳業が果たすことのできる重要な役割を共有していきます。

詳しくは以下のリンク先をご覧ください。

<https://fil-idf.org/dairys-global-impact/dairy-sustainability-outlook/>
<https://pathwaystodairynetzero.org/>

参考資料:

- 1) https://fil-idf.org/news_insights/idf-will-actively-participate-in-cop27/ Blog interview on COP27 with IDF Director General, Ms. Caroline Emond. International Dairy Federation.
- 2) https://fil-idf.org/news_insights/joint-idf-gdp-statement-un-cop27/ Joint IDF / GDP Statement UN COP27. International Dairy Federation.

(資料閲覧:2022年11月7日)

(担当:Jミルク 国際グループ)

齋藤 真人、新 光一郎)